

日本十進分類法(NDC)10版 試案の検討

2008-2009年度分類研究分科会報告
分類研究分科会 藤倉 恵一
(文教大学越谷図書館)

第一部 活動報告

分類研究分科会の概要と活動

分科会の基本テーマ

- 図書分類法に限らず、件名標目、シソーラス、インデクシング理論など広義の分類法の理論的研究
 - 「分類を研究する」基本姿勢
 - 「実務を優先し理論を軽視する姿勢が実は業務がうまくいかない元凶でないか？ (中略) 基礎を固めない実務はすぐ行き詰る」 – 田窪直規氏 (近畿大学教授)
- J. Mills著, 吉田暁史・田窪直規ほか著「資料分類法の基礎理論」序論より

知識の組織化 (Knowledge Organization) は図書館の基礎である

今期のテーマ

会期全体のテーマ(主に2008年度)

- ・「分類の根幹をとらえる」
 - 図書館における分類に限らず、「分類する」ということの本質はどういうものか
 - ・ 事象・物質の分類 →「分類学」という学問
 - ・ 規格の分類 →さまざまな観点の存在
 - ・ 宗教観に基づく思想の分類 →学問分野の分類へ

今期のテーマ

会期後半のテーマ(主に2009年度)

- 「NDC10版試案の検討」
 - 9版試案当時の批評などを参考に検討
 - 改訂の影響・妥当性、問題点などを検証
 - 試案説明会への出席
 - 意見書の提出(予定)

詳しくは「第二部 研究報告」にて

組織・活動概要

- ・メンバー 7大学7名

(うち2009年7月より個人会員1名)

- ・月例会開催 10回／年(8月・1月休会)

- ・夏期研究合宿

- 2008年度 あきる野市「山溪」

テーマ「図書館分類の現在」

- 2009年度 箱根高原ホテル

テーマ「NDC10版改訂試案の集中的検討」

今期の特別活動

- TP&Dフォーラム(整理技術・情報管理等研究集会)共催
 - 1992年(第2回)から分類研究分科会が共催
 - 2008年8月30日～9月1日(大阪) 会員から3名参加
 - 2009年8月29日～8月30日(東京) 会員から4名参加
- 日本十進分類法新訂10版試案説明会への出席
 - 2009年11月10日 日本図書館協会にて
- 日本図書館協会分類委員会への意見提出(予定)

第二部 研究発表

日本十進分類法(NDC)10版 試案の検討

NDC9版～10版に至るまで 日本図書館協会分類委員会の動きを中心に

9版の刊行まで

- 1986年5月 改訂方針公表(図書館雑誌)
「NDCの論理構造への批判も種々提出されている。(略)委員会でも検討してみたい。ただし、(略)実際に使用している図書館に大きな負担を生じるような変更はないようにしたい」
- 1989～1993年 9版試案公表(図書館雑誌)
「記号や構成の大幅な改変を極力避け、8版との継続性を重視する」
- 1992年7月 “NDC9”検討会開催
 - 整理技術研究グループ、分類研究分科会、整理技術研究会からの代表提案
- 1992年～1995年 整研「NDC9版を考える」(図書館界)
 - 整理技術研究グループによる9版試案への批評
- 1995年8月 NDC新訂9版刊行

10版の刊行に向けて

- 2002年 活動開始
- 2004年4月 改訂方針公開(図書館雑誌)
- 2008年10月～ 10版試案公開開始(図書館雑誌、ホームページ)
 - 2008年10月 3類 社会科学
 - 12月 2類 歴史・伝記・地理
 - 2009年 2月 7類 芸術
 - 7月 0類 総記(情報科学を除く)
- 2009年11月 試案説明会(中間報告)開催
 - 金中利和前委員長「**使いやすいNDC**の実現をめざす」
 - 各類試案(0, 2, 3, 7類)概説
 - 情報科学・情報工学の統合試案
 - 相関索引のデータベース化試案

10版改訂方針（骨子）

- 9版改訂方針の踏襲
 - **NDCの根幹にかかわる体系の変更はしない**
(ただし007と548の統合を検討する)
 - **書誌分類法を志向**
- **新主題の追加**
 - BSH、NDLSH、新刊書からの積極的な追加
- **項目の修正・追加**
- **分類典拠ファイルの作成**

金中利和「日本十進分類法新訂第10版の作成について：JLA分類委員会の改訂方針」
図書館雑誌 98(4), p.218-219, 2004.4 より整理抜粋

分科会における検討

研究の対象（素材）

- 「日本十進分類法第10版試案の概要」
(Web掲載版)
- 「NDC9版を考える」
- 「出版年鑑」2009、1999
- 「日本十進分類法」新訂9版
刷が違くと表記などが整合しないので最新刷(13刷、
2009年4月)を全員分購入

研究のプロセス

- 公表された10版試案の検討
 - 9版試案に対し、整研が出した批評の再読
 - 整研ほかの批評を受けて、実際に刊行されたNDC9版と10版試案との比較
 - 本表と照合しながら試案を精読
 - 問題点の洗い出しと整理
- 全体的な問題点の討議
 - 各版試案の検討から浮上した問題点の中からNDC全体に及ぶ問題の抽出・検討

各類試案の検討から

3類 社会科学 試案

- 改訂個所が多い
 - 注参照の追加、注記の追加、用語の変更(現代の事情への対応など)が大部分
- 行政組織・機構(317.2)のアップデート
- 会社法(325.2)の法改正にともなう下位区分新設
- 介護保険(364.48)新設
- 教育課程(375)における授業科目のアップデート
- 障害児教育(378)の名称変更・下位区分新設
- 国防・軍事(390)における自衛隊の扱い変更

3類 社会科学の問題点

- 出版年鑑をもとにした改訂効果の測定
 - 介護保険(364.48)、障害児教育(378)は影響大
 - それ以外はそれほど大きな変化はない
- 用語や注記のアップデートは分類表の「改訂」に含まれるべきものか？
- 自衛隊の扱い変更により、縮約の問題が露見
(これらは後述)

0類 総記 試案

- 情報科学(007)は除いた試案
 - 007と548 情報工学との統合に向けて別途検討中
 - 試案説明会で概略公表
- 注記の修正が多い
- 資料保存(014.6)、図書館サービス(015)、文書館(018.09)など改訂箇所も多い
 - 下位区分の新設、用語のアップデート

0類 総記の問題点

- 007と548の統合については別途審議要
- 注記の文章がわかりづらい
 - 他の類における記述と整合していない箇所が散見
 - 注記に矛盾した箇所も発見(018.09 vs 014)
- 図書館サービスの対象者別区分は他の「人」の区分と(またしても)異なる → 補助表の必要性
- 図書館の業務と館種が不均衡(公共図書館のみ優遇された構造) → 補助表の必要性

特定の「人」に関する問題

- 「人(の集団)」の区分と番号が一貫しない
 - 児童・青少年に対するサービス 015.93
 - 児童図書館 016.28
 - 児童のための教訓 159.5
 - 児童福祉 369.4
 - 児童心理 371.45
 - 児童文学 909
- 配列順が一貫しない
- 複合主題を分類する際の優先順位が判別困難
- いわゆる助記性に欠ける
- 将来の拡張が困難

「人」を扱う一般補助表

- 「人」の種類区分原理に一貫性を
 - 一般補助表に「人」を設けては？
(DDC Table 2 “Areas, Periods, Persons”などを参考に)
 - 現在の区分を一度に解消するのは困難かも
- ◆ 主題表現力の向上につながるのでは？

図書館関係の固有補助表

• 図書館(010)

- 011 政策・行財政
- 013 経営・管理
- 015 サービス・活動

「*ここには、一般および**公共図書館**に関するものを収める」

構造がアンバランス(012、014は館種を問わない)

- 011/015で共通して適用できる館種を区別するための固有補助表を設けては？
 - あるいは016/018(館種別)に各主題を適用させるための固有補助表を設けては？
- ◆ 主題表現力の向上につながるのでは？

固有補助表の例

- 016/018に各主題を表す記号をつける
例：-091図書館政策・行財政 -094資料組織 -095図書館
サービス(011/015に準じて細分)とした場合
- レファレンスサービス〈一般〉 015.2
- 公共図書館におけるレファレンスサービス 016.20952
- 大学図書館におけるレファレンスサービス 017.70952
- 医学図書館図書分類表 018.4909446

文書館に関する注記の誤り

- 018 文書館. 史料館
 - .094 資料の収集. 資料の組織化. 資料の保存
 - :014.71
- 014の注記は「館種の別なく, ここに収める」
(018.092 文書館建築. 文書館設備も同様)
 - これらの新設を別法とするか、撤回(削除)するか、何らかの対応を求める

7類 芸術 試案

- 項目の再配置が多い(概念の明確化)
 - 音楽における「電子音楽」「電気楽器」の区別
 - 用語のアップデートや修正が多い
 - 「フリュート」 → 「フルート」
 - 「ラクロツス」 → 「ラクロス」
 - 「スノーモビール」 → 「スノーモービル」
- など

7類 芸術の問題点

- 726の各下位区分に縮約記号導入
 - 例：漫画の理論726.101→726.11
 - NDCの理論的構造の破綻を助長するもの
(新規の導入は慎むべし)
- 絵本(726.6)における注記(扱い)が726.1、726.5と一貫しない

2類 歴史・地理 試案

- 補遺の反映、地名のアップデート
 - 平成の大合併
 - 国名(例:「チモール」→「ティモール」)
- 歴史上の出来事の項目・番号の追加
- 伝記の便宜的な3分法の固定化
 - 289.1 日本人(の伝記)

2類 歴史・地理の問題点

- 索引語との関係
 - 国名、地名、歴史上の出来事は正しく索引に記載されているか
 - 合併された旧地名は索引語に残されるか
 - 歴史上の出来事の表記の「ゆれ」は索引で検索できるか
- 北朝鮮と韓国が(いまだに)区分できない
 - 東西ドイツの例などを参考にできないか

NDCが抱える問題と その解決に向けて

用語や注記のアップデート

- 試案の大半を占めている
 - 9版刊行当時からの時代の流れ
 - 不十分だったものの補填・補完
- 『補遺』の発行では不十分なのか？
 - 刷のレベルで対応可能な問題ではないか

『補遺』の充実を

- 「改訂」は分類項目や番号の新設など、区分の見直しが中心のはず
 - 新語の追加・注参照の修正は『補遺』により常時アップデートできるのではないか？
- ◆ 改訂審議が迅速に進むのでは？
- ◆ 分類作業者の助けになるのでは？

縮約記号に関する問題

・ 縮約 出版点数を考慮して桁数を調整

370 教育

-02 歴史的・地域的論述(形式区分)

370.2 教育史・事情

→ 372 教育史・事情

階層構造が表の中で一貫しない

01(理論・哲学)02(歴史・事情)07(研究・指導)の順

縮約記号に関する問題

– 形式区分の重ねての使用は「推奨しない」

教育370 の歴史02 の事典033 は表現できないはず

「アメリカ教育史事典 372.53033」はNDCの規則上
正しい記号か？

- 作業に迷いを生む
- 階層構造が崩れる
- 主題に対する的確な表現力を失う

縮約記号の見直しを

- 縮約がNDCに既に数多く存在し、実績があることは認めざるをえないが
 - 新規の縮約(7類)は不可避か？
 - 既設の縮約でも実績が少ないものを見直すことはできないか？
 - 形式区分の重複使用、使用優先順位の規則について審議を
- ◆ 複合主題の分類の助けになるのでは？

注記に関する問題

- 「*〇〇は、ここに収める」(限定注記)
- 「*ここには、〇〇を収める」(包含注記)

- この違いが、日本語表現上わかりにくい
- 『解説』ではごく簡単な紹介にとどまる

注記に関する問題

- Dewey Decimal Classification では
 - Class-here notes (≡ 限定注記)
What is found in a class
(その分類では何が見つかるか)
 - Including notes (≡ 包含注記)
(Identify topics that have “Standing room” in the number where the notes in found)
まだ分類番号として割り当てられていないトピックの識別
- 英語表現上その違いは明確
- 定義もマニュアルで詳細に行われている

注記に関する問題

- Class-here notesは形式区分できるが、Including notesでは区分できない(定義が異なるから)
つまり、**DDCの注記 ≠ NDCの注記**
 - 意味がはっきりわかるよう『解説』での定義づけを明確に
 - 「*」以外の記号も用いては？
 - 冗長な文章の見直しをしては？(「;」で複数の注記を列挙している箇所の見直し)
- ◆ 「使いやすいNDC」実現につながるのでは？

おわりに：次期の活動

次期活動方針

- 10版試案の検討（継続）
 - 公表される試案の検討・批評
 - 単に異を唱えるだけでなく、ある程度実現性のある代案・対案の提出と、それに向けた研鑽
- 分類理論の基礎研究
 - ただNDCだけを検討する分科会活動ではない

2010～2011年度分類研究分科会

テーマ

「使いやすいNDC」は実現可能か!?

(仮)

多数のご参加お待ちしております

(過去のテーマ)

- 2002～2003年度 BC2とNDCの性能比較
- 2004～2005年度 DDC諸版とNDCの性能比較
- 2006～2007年度 NDCの性能向上実験